

高等学校第2学年 体育科（スポーツ総合演習） 学習指導案

1 単元名

「スポーツを通じた社会参画に関する課題研究」

2 単元について

(1) 単元観

スポーツ総合演習は、実習、体験、発表などの課題研究を通して、知識・技能の重要性を改めて認識し、情報の分析・評価、論述や熟考、評価などの言語に関する能力の育成に資するとともに、自らに適した生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現に向けた見通しを立てるとともに、スポーツと多様にかかわることのできる能力の育成をねらいとしている。また、「スポーツ概論」などで学習した知識及び各科目に関連する専門知識や身につけた高度な技能を、スポーツ実践、スポーツの指導や運営、スポーツを通じた社会参画などの場面に総合的に活用することを目指したものである。

これらのことから、本単元において異年齢交流活動を行うことは、未来の創り手となる「豊かな学び」の創造につながるものであると捉える。

(2) 系統観

高校入学年次	その次の年次以降
(スポーツ総合演習) スポーツの専門的な知識や高度な技能の総合的な活用を目指した課題研究を通して、生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現及びスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 (1) スポーツの知識や実践に関する課題研究 (2) スポーツの指導や運営及び管理に関する課題研究 (3) スポーツを通じた社会参画に関する課題研究	

(3) 生徒観

落ち着いた学校生活を送り、体育活動に積極的に参加している生徒である。部活動にも全員が加入し、各部の中心として練習に励んでいる。

「人との関わり」についてアンケート調査を行ったところ、以下のようになった。

アンケート項目	はい	どちらでもない	いいえ
友だちといると楽しい	96%	3%	1%
人と交流することに興味がある	59%	30%	11%
子どもとの交流に興味がある	64%	22%	14%
知らない人とも協力できる	50%	29%	21%
コミュニケーション能力が高い	46%	31%	23%
自分から積極的に行動できる	49%	37%	14%
人前で話すことが得意だ	29%	28%	43%
人に教えることが得意だ	33%	39%	28%

この結果を見ると、交友関係は良好であるが、友人以外の人たちとのコミュニケーション能力に否定的な意見を持つ生徒も多く、人と交流する場面での行動は消極的なことが推測される。今回は、生徒に学んだ知識を使って、考えたことや創造したことを体現できる場を設定し、スポーツを通して、多くの方々と積極的に交流できる資質を育てていきたい。

(4) 指導観

本単元では、スポーツ総合演習のねらいを踏まえて、実習、体験、発表などを通して、学習した知識及び各科目に関連する専門知識や身につけた高度な技能を、スポーツ実践、スポーツの指導や運営、スポーツを通じた社会参画などの場面に総合的に活用するなどし、スポーツと多様にかかわることのできる能力を育成する。

「愛好者としての立場からスポーツを支える」という視点から体験や実習を通して、スポーツを通じた社会参画の一場面を計画し、その中で、学んだ知識や調べたことを高齢者や幼児への運動プログラムとして提供することで、「豊かな学び」を創造できる資質を育成できるようにする。

研究の視点1

「見方・考え方」に着目した問いの工夫

- ①運動の価値や特性に着目して、高齢者や幼児にとっての楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす活動を考えさせる問いを工夫する。
- ②「スポーツを支える」という視点から、スポーツを通じた社会参画ができる資質を育成する問いを工夫する。

研究の視点2

学びを実感する振り返りの工夫

- ③毎時間の「初めて分かったこと」、前時と比較して「改善できたこと」を振り返らせ、次時に対する意欲の向上を図った。
- ④「教科横断的な学習」を貫く問いの中でも特に『運動を支えること』に着目し、自分たちがどのような役割を担うべきなのかを考えさせるきっかけとなるように振り返りを設定する。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	スポーツの専門的な知識や高度な技能の総合的な活用を目指した課題研究を通して、生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現及びスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。	
関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
①スポーツの価値や特性に関心を持ち、スポーツを通して支えていこうと進んで学習に取り組もうとしている。 ②高齢者や幼児の心身の状況に気づき、運動の楽しさや喜びを伝えようと進んで学習に取り組もうとしている。	①「スポーツを支える」という視点から、生涯スポーツとのかかわり方について、自分の考えを整理している。 ②幼児や高齢者への運動や体力の向上を図るための方法を選んだりしている。 ③互いのよいところや成果をとらえ、よりよい動きや方法を選んだりしている。	①幼児や高齢者にとってのスポーツの意義や必要性について、具体例を挙げている。 ②運動実践のための目標設定や課題の把握、実習計画の立案について、具体例を挙げている。 ③幼児や高齢者への運動プログラムを作成・修正する方法について、具体例を挙げている。

4 指導・評価の計画（18時間取扱い 本時 17/18）

単元を貫く問い：スポーツを通して、社会と関わろう。

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	2	1 異年齢交流活動の意義を学ぶ。 2 高齢者の動きについて学ぶ。	【関心・意欲・態度】①：ワークシート・観察 【思考・判断】①：ワークシート 【研究の視点2】 ③初めて分かったことを整理し、今後の活動に活用できるようにする。
二	4	3 グラウンドゴルフ大会の企画・運営について学ぶ。	【思考・判断】②③：ワークシート 【知識・理解】②③：ワークシート 【研究の視点1】 ①高齢者が楽しめる大会運営をするために自分たちができようことを考える。 【研究の視点②】 ③付箋やワークシートを活用し、まとめたことを視覚化する。
三	2	4 グラウンドゴルフ大会を運営する。	【関心・意欲・態度】②：観察 【思考・判断】③：ワークシート・観察 【研究の視点1】 ②グラウンドゴルフ大会を成功させるための条件について考えさせる。 【研究の視点2】 ④自分たちの計画や役割について、課題を挙げることができるようにする。
四	4	5 幼児の運動プログラムを考える。	【思考・判断】①②：ワークシート・観察 【知識・理解】①③：ワークシート・観察 【研究の視点1】 ①幼児の運動実践の意味を考えることができるようにする。 【研究の視点2】 ③付箋を使ったり、ワークシートと同様に板書をまとめたりすることで考えを視覚化する。
五	4	6 幼児の動きの特徴をつかむ。 7 考案した幼児の運動プログラムを修正・変更する。	【思考・判断】②③：ワークシート・観察 【知識・理解】②③：ワークシート・観察 【研究の視点①】 ①幼児の動きの特徴を捉え、幼児の体力向上を図る運動内容を考えさせる。 【研究の視点2】 ④体験したことをまとめ、運動プログラム作成に生かすことができるようにする。
六	2	8 幼児の運動プログラムを実践する。	【関心・意欲・態度】②：ワークシート・観察 【思考・判断】②③：ワークシート・観察 【研究の視点1】 ①幼児に運動の楽しさや喜びを伝えるにはどのようにしたらよいかを考えることができるようにする。 【研究の視点2】 ④運動プログラムの成果と課題を見つけることができるようにする。

5 本時の学習

(1) 目標

・幼児に運動の楽しさや喜びを伝える方法を考える。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 あいさつ・点呼 2 本時の内容・目標の確認	○点呼・健康観察を行う。 ○それぞれの役割を確認させる。	
学習目標（めあて）：幼児に運動の楽しさや喜びを伝える方法を考えよう。			
展開 37分	3 考案した幼児の運動プログラムを実践する 生徒は教師役とパートナー役に分かれる。 教師役：全体説明・全体指導 パートナー役：個別指導 ① リズムダンス 教師役が全体説明と見本を示し、考案したダンスを楽曲に合わせ、幼児とともにパートナー役が実践する。 ② しっぽ取り鬼ごっこ 教師役が全体説明と見本を示し、幼児とともにパートナー役が実践する。 ③ チーム対抗リレー 教師役が全体説明と見本を示し、幼児とともにパートナー役が実践する。	【研究の視点1】 ①幼児に運動の楽しさや喜びを伝えるにはどのようにしたらよいかを考えることができるようにする。 ○幼児を観察し、ケガや事故防止に努めさせる。 ○幼児の視点に立った言葉遣いや行動を選択させる。 ○幼児に安心感を持たせるような動きから始めさせる。 評価：思考・判断（観察） B基準：幼児の動きを観察し、改善点を考えている。 A基準：B基準に加え、具体的な改善方法を提示している。 B基準に達していない生徒への手立て ○生徒に他の生徒の幼児に対する行動を観察させ、改善する方法を考えさせるきっかけを与える。 ○生徒に幼児がつかまらずにいるポイントを提示し、改善する方法を考えさせるきっかけを与える。	音楽プレイヤー テープタイマー バトンコーン
整理 8分	4 学習のまとめ (1) 今回の実践について、ワークシートにまとめる。 (2) 意見交換	○それぞれの役割の中での成果と課題を振り返らせる。 【研究の視点2】 ④運動プログラムの成果と課題を見つけることができるようにする。 ○A評価の生徒に成果を発表させる。	